第6号
平成12年11月1日

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

大学開放に向けて —— 平成12年度富山大学公開授業が実施される

公開授業は、公開講座、ならびに出張講座と並んで、「大学開放」事業の中でも重要な取り組みの一つです。学部学生向けの「正規授業」を公開する意味で、まさに富山大学の知的エッセンスが市民に向けて発信されるという本格的な「開放」といえるものです。

このたび、10月19日(木)より12月21日(木)まで、一般市民を対象とした公開授業「地域と人間」が開催されます。本公開授業の企画・調整を担当された松崎一平先生（人文学部）にお話しをうかがってみました。

——このたびは、公開授業にご協力いただき、ありがとうございます。さて、「地域と人間」というテーマには、どういうねらいを込められたわけでしょうか？



松崎：「地域と人間」というテーマは、教養教育実施専門委員会の企画で、昨年から実施しているものです。昨年は開学50周年という節目も意識して企画しました。そもそも、人は社会の中でいろんな経験をしながら生きていますが、大学の授業ではそうした経験についてふれる機会が少ない面もあります。そこで、できるだけ富山をはじめとする「地域」でがんばっておられる方に登場していただくことで、少しでも学生の生き方、アイデンティティ形成に資するような授業を考えてみました。それはまた、地域の方々が受講されることで雰囲気も変わってくるだろう、公開授業として適切なテーマであろう、という考えで学外への公開を試みてみたのです。

——なるほど。今回は、講師陣もバラエティに富んでいるように見受けられますが、その辺の準備・企画のときのお話しなどを一つ...

松崎：教養教育実施専門委員会の中に、5部会長と私の6人からなるワーキング・グループを結成して、今回の授業を企画しました。そこで、「地域と人間」というコンセプトにかなう人材を考えあって、このような構成になったのです。公開授業の内容としては、(1)介護問題を通して地域の問題、ひいては日本の自治体のあ

平成12年度　富山大学公開授業「地域と人間」スケジュール

区分	期　日	講師氏名・所属	内　容	時間
①	10/19(木) 10/26(木) 11/2(木)	竹川　慎吾（富山大学経済学部） 〃 西村　和美（デイケアハウス）	介護問題と地域社会	4.5時間
②	11/9(木)	吉田恵美子（富山警察署）	少年非行の現在 －警察補導員からの提言－	1.5時間
③	11/16(木)	稲葉　実（富山国際職藝学院）	生涯現役 －職人社会からのメッセージ－	1.5時間
④	11/30(木) 12/7(木)	大谷　博之（大谷治療院） 〃	もっと自由に表現しよう！ ～Talk Live～	3時間
⑤	12/9(土)	北村　暁夫（日本女子大学文学部）	南イタリアの地域共同体	4.5時間
⑥	12/14(木) 12/21(木)	高　才弘（有限会社コーズ） 〃	在日韓国人と日本の地域社会の現在	3時間

り方を理解する、(2)具体的に同世代の人々の生き方を学ぶ、それは警察署の職員の方のお話、あるいは「職人」づくりについてのお話しをうかがうことで、多面的にみる、(3)青年期らしい自由な自己表現、自己主張のしかたについて学ぶ、(4)最後は抽象的な方面になりますが、外国の移民の話、在日韓国人の話を通して、「閉じた」地域ではなく、ダイナミックな変動の中の地域について考えていく、という筋道を意識しています。

――授業づくりを共同で進めておられる様子、大いに今後の参考になるお話でした。さて、最後に今後の公開授業について、ひとことお願いします。

松崎：授業にはシラバスがすでにできあがっていて、各教員がどういう授業内容を提供しているか、比較的把握しやすいものとなっています。それをもとにいろんな公開授業を組み立てていくことができるのではないでしょうか。また、現在の「総合科目」の中に、センターで公開講座を受講されている方々を利用した授業を企画していただくことも面白いと思っています。

――有意義なお話、ありがとうございました。

このようにして、日頃の知的・教育的研鑽を積み上げながら、このようにして富山大学の知的資源を開放していければ、と祈念しております。今後とも、多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

今年度のひと味違った公開講座

本年度も、多くの先生方・職員の皆様方のご協力のもと、多くの公開講座が実施されています。その中から、二つほどユニークな企画をご紹介いたします。

――その①「利賀村から世界をみる」企画

去る８月26～27日、９月２～３日（いずれも土・日かけて１泊２日）におこなわれた公開講座「社会の寿命とその再生」は、これまでにないユニークな企画でした。まずは「何が21世紀を豊かにするか」という本講座の課題を考える材料。なんと、46億年の大昔にさかのぼった「地球の誕生」から、縄文人の生活・環境との関係、さらにはミクロな「細胞の死」の理解を通してみた生命活動の姿など、本当に、あらゆる科学の粋を集めた興味深いお話ばかりでした。「どうすれば調和的かつ豊かな経済生活が営めるのか？」「縄文人は本当に環境にやさしい人々だったのか？」など、どれも魅力的な課題設定にひきつけられてか、受講者の真剣な姿勢、活発な質問・交流会もみられ、盛況のうちに閉講となりました。このほか、自然がいっぱいにあふれる「利賀村」の地の利も忘れてはならないでしょう。予期せざる幸運で、劇団「SCOT」の迫力ある演技を鑑賞したり、利賀村の村長さんその他の訪問なども見られ、たいへんに意義深い講座となりました。経済学部の桂木健次先生によるコーディネートの労に感謝いたします。



――その②　ＳＣＳで公開講座？……沖縄と富山を結ぶ

去る８月12日(土)、公開講座「教師のための情報教育実践講座」の第２日目の講習がおこなわれました。その日、あいにく総合情報処理センター長の山西先生は、はるか遠く沖縄の琉球大学へ集中講義に出張中でした。その日の講習内容は、黒田卓先生（教育学部）のご指導のもと、デジタルカメラを用いた制作活動でした。これは、グループ毎に四コマのストーリー作成し、のちナレーションをまじえて発表会・講評がおこなわれるといった、とても「実践的」なもの。先生方の情報教育にとって有益なものであったと思われます。しかし思いがけないことがその後おこりました。デジカメの撮影を終え、四コマの発表をしようと講習生の方々が情報処理センターに戻られたところ、そこには、ＳＣＳを介して山西先生と琉球大学の学生たちの姿が！この日は、ハイテク機器のすごさと、にくい演出に圧倒された日でした。公開講座の準備を進められた先生方、ならびに補助を担当された学生諸君に感謝いたします。

全国の「生涯学習」に携わる方々との交流

その①平成12年度生涯学習機関等の連携に関する研究協議会」に参加して

去る７月24日～26日、国立社会研修所にて開かれた「平成12年度生涯学習機関等の連携に関する研究協議会」に、センターの仲嶺が参加し、生涯学習機関どうしの「連携」に関することについて学んできました。分野別に「講義」から「事例研究」と続き、いろいろ意味で意義深い研修となりました。講師・報告者の方々には、いずれも力のこもった話題を提供していただきましたが、特に、次のようなことに関心を引きつけられました。

まず、高度な情報通信技術を駆使した遠隔学習が実践されつつあることです。講師である浅井経子さんの報告で、淑徳短大－青森県総合社会教育センターのＴＶ会議システム（文部省エル・ネット：講師側は衛星通信、受講者側はIDSN回線で、それぞれの様子がモニタに映し出される）による遠隔学習の事例が紹介されていました。最近は大学間のSCSの利用も盛んになりつつありますが、一般市民を対象とした生涯学習の中でも衛星通信技術を取り入れた試みがみられるのです。今なお試験的な試みではあるものの、ISDNによる双方向型の事例もあり、だんだんと「大学開放」のあり方が都道府県の垣根をこえていく様を見た思いでした。このように「中央－地方」の格差や距離、あるいは南北に長い日本列島のいたるところまで、様々な知的資源がダイナミックに流通し、以前とは異なる「学習」が実践されるのだろうか、という思いを馳せました。しかし他方で、そうしたすさまじい勢いで進む情報技術の革新の中で、個性的で地域の根ざした知的機関としての大学の役割が、ますます重要なものとして期待されるようにもなるのだろう、とも感じた次第であります。

その②第22回国立大学生涯学習系センター研究協議会に参加して

去る10月５日～６日、北海道大学にておこなわれた第22回国立大学生涯学習系センター研究協議会に、宇井（センター長）、大石（副センター長）、仲嶺（センター講師）、赤井（大学開放係長）の４人が参加して参りました。全国の大学開放に携わる方々との交流の中で、講師謝金をはじめとする予算問題、事務職員の短期異動に起因する業務の継続的遂行の難しさ、などなど、「やはりどこの国立も悩みは一緒だ」という思いを感じながら、盛況のうちに閉会となりました。

そして、来年の研究協議会は富山で開催されます！　一つ、全国の大学開放を志す同志たちに、「富山では実りある協議ができた」と言われるように、センター職員が一丸となって準備を進めていく所存であります。また、皆様のご協力をお願いする機会がありましたら、なにとぞ、よろしくお願いいたします。





はじめまして ―― 新しいスタッフの紹介

1，新センター長・教育学部教授　宇井啓高（うい・ひろたか）

私は2000年5月10日付けでセンター長に着任しました。専門は野外調査による地質学を基本とした環境科学です。富山大学に来て22年が過ぎました。振り返ってみますと、大学の情況はつい先頃に比べ、ずいぶんと窮屈になってきました。当センターが創設される以前から公開講座は開かれていたのですが、最近は大学評価の重要項目と位置づけられ、ややもすれば私ども大学人に大学開放が義務的な押しつけとして重くのしかかってくるように感じられます。しかし、もう一度大学というものの原点に立ち返り、義務的でなく、自主的で創造的でかつ楽しい大学開放をめざしたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

2，センター専任講師・仲嶺政光（なかみね・まさみつ）

はじめまして、このたび７月１日付けで生涯学習センターに着任いたしました。1968年沖縄生まれ、研究テーマは地域と教育の社会的・歴史的な関係について考察するというものです。趣味は卓球、最近ゴルフにも興味がでてきました。かつて、研究的な関心と趣味とが重なって、沖縄の伝統芸能「エイサー」（地域の青年会がお盆におこなう活動）に心酔したこともありました。ここ富山にても、地域の青年たちの様子について、いろいろと調べていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いします。

お知らせ ―― 富山大学親子フェスティバル

来る11月３日(金)～５日(日)にかけ、幼児～小・中・高校生とその保護者の方を対象として、富山大学親子フェスティバル（生涯学習教育研究センター・教育学部主催）が開催されます。開催時間は10時～17時（初日12時から開始、最終日は15時にて終了）です。場所は富山大学黒田講堂、生涯学習教育研究センター、教育学部附属教育実践総合センターです。参加費は無料です！

この行事も今回で４回目を数え、近隣の子どもたち・父母の方々にはすでに「おなじみ」のものとなってきています。従来からおこなわれている芸術展覧会、ものづくり体験活動、マルチメディア体験などのイベントに加え、今回は「山田かまち展」が目玉の一つになっています。今年は、17歳で不慮の死を遂げた山田かまちの生誕40周年にあたります。彼の思春期の生き方をうかがいながら、近年の青少年たちの状況を理解し指針を与えるものとなれば、と思われます。３日は講演「17歳からのメッセージ――山田かまちに学ぶもの」、シンポジウム「山田かまちと思春期の若者たち」、４日は富山と兵庫の中・高校生による公開討論会「今、生きるとは―私がかまちから学んだこと」など、興味深いメニューも用意されています。なお、「山田かまち展」は８日(水)17時までおこなわれます。皆様もふるってご参加下さい。

親子フェスティバルについてのお問い合わせは、教育学部の竹井史先生（076-445-6317）までお願いいたします。

会議報告

◆ **第１回生涯学習教育研究センター運営委員会**
開催日時｜平成12年５月11日(木)
（持ち回り開催）

◆ **第２回生涯学習教育研究センター運営委員会**
開催日時｜平成12年６月７日(水)　13時15分～14時50分
開催場所｜生涯学習教育研究センター会議室

◆ **第３回生涯学習教育研究センター運営委員会**
開催日時｜平成12年10月18日(水)　15時00分～16時50分
開催場所｜生涯学習教育研究センター会議室

◆ **第１回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会**
開催日時｜平成12年10月30日(月)　10時45分～11時30分
開催場所｜生涯学習教育研究センター会議室

◆ **平成12年度生涯学習機関等の連携に関する研究協議会**
開催日時｜平成12年７月24日(月)～26日(水)　10時00分～15時30分
開催場所｜国立教育会館社会教育研究所（東京都）

◆ **第22回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会**
開催日時｜平成12年10月５日(木)～６日(金)　12時00分～13時00分
開催場所｜北海道大学百年記念会館及び情報教育館（札幌市）



発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960